

第5回

近畿スロウ精神障害者 家族会指導者研修会開く

去る七月十日(土)日「コミニ
ニ」嵯峨野においで五四名
の参加を迎えて近畿スロウ族
族会指導者研修会を行われま
した。古南木東会長秋の観望
樓に続いて、府立若南病院々長
小池清康先生より「精神保健法
と家族会」と題して記念講演が
行われました。その後府立若南
報費あり、全体会を終了しま
した。

オニ曰目は、ニグループによる
分級会で「今、家族会は何をな
すべくか」について真剣な討論
がなされました。行政には、①福
社の長期計画の実施 ②家族会
に対する指導助言 ③小規模作
業所への助成を、家族会自身と
しては、①家族会のPRと協力
体制 ②家族会々員の高齢化村
策 ③親守きあとの対策 ④組
織拡大 ⑤財政強化が課題と
なりました。精神保健法と改正
され、障害者の人格の確立、社会
復帰の確保など法体制は確

立したものの、障害者自身やその
家族の視点は重視されな
ず、
参加者が同じ意識に立って、一人
一人が発言し、お互い意見を交換
出来たことには素晴らしいことであ
ったと思われれます。

文責 杉山 俊夫



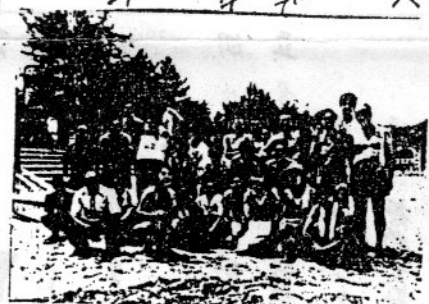
他の家族会活動に励まれ

船井郡精神障害者家族会 秋島野木
ファミリー会と云

家族会指導者研修会に
参加しました。作業所の行
い家族会、病院の患者さん
でつづられた家族会、障害者
自らの手でつくられた家族
会など同じ境遇の方々とい
揃に苦しみや悲しみを分か
り合えた研修会でした。専門
の指導員も行く、家族会に
けで運営して作業所、夜間
回収、バザー等苦しい状況
の中で運営して主婦の方
は、親の死後不安を感じても

合同レクリエーション

八月二日(火)雨にもかかわらず
晴れ間をぬって由良海岸へ
海水浴に行きました。
雨続きの影響が、意気こ
海に泳ぐ人だもの、三才
分もすると海から上がり
波打屋でゴロンとひと休み
する人の方が多いです。



ました。その後、お刺し
て楽しいひと時をすごしました。
(参加者36名
うち、妻帯者
10名、団塊
15名、スッパ
名)



自治体から全額補助金もなく
家族会をばらばらして一生懸命
りてかられます。
又秋山の婦人の方は、4坪の
土地を貸して、街頭に出る為
全活動をやめたり、各方
面から寄付を受け、自力
でフリーニング工場を設
立したり、4八百万円の
資金を集めたり、皆んが
力をあわせて合せてやれば
出来るという自信と意気
を新たに教えて下さいま
した。

親より一日だけ早く死にたいな
んて一言も言いません
精神障害者を持つていることを
恥おかしらと思わず、身内の重
荷としりて福祉社会をめざす
人々と共に二の子供達のよりよ
き人生をめざして頑張つてゆき
たいと思います。

失敗を恐れず

国部保健所精神衛生相談員
杉原 好



四回の人妻会以後、国部保
健所で精神衛生相談員として働
いていきます。以前の職場は後部

保健所でした。後部市は一市一
保健所で地域性も行政も割に均
一なものがありました。国部
保健所管内は特徴のある六町が
あり、それぞれ年ほどの異質です
が、おもしろ味を感じています。
反対に同じ印象としては、西保
健所管内とも精神科の診療機関
はなくその分、保健所の果たす
役割が大きいのだろうと身の引
きしまる感じがします。

精神保健の仕事を目に見えず
時間がかかり、且つ熱い胸と冷
たい頭が要求されるものですが
一人でやることなど知れたも
のです。そこで大いに助けられ
たのは共同作業所でした。二二
ではその理由を記している人夫
はありませんが、再発防止と社
会復帰への取り組みでは相当な
力量を感じています。

さて「社会復帰」についてで
すが、多くの回復路上にある方
は社会復帰というところを執着す
る仕事に就くと考えておられ
るのでは有りませんか。強か
ら二二でいけば、お父さん
に二二でいけば、お父さん
私は少し違った見方をしていま
す。

それは、石口セズ(経過)を大切に
するといふ前です。就職や自生生活
のために種々のことは大切でござい
ます。単にその結果にとらわれたい
でも二へだどりつくまでの自分の努
力をちゃんと評価できるようなする
成功したら自信と、失敗してもそこ
から学んだものと正當に評価できる
ことが最も求められていると考えて
ります。

社会復帰するためにはまわりの援
助が大切です。主治医や共同作業所
保健所に相談しながら頑張って自分
を評価しましょう。かならず道は開
けます。今後私も協力ながらお手伝
いしてまいります。

特集

一般就労への

要件とは

精神障害者にとって社会復帰とい
った場合、まず地域で安定して生活
することと意味していると思います。
多くの精神障害者は、発病後の入院
生活で精神状態はあまり大きな問題
にはならず、たもの作業能力



作業所との

出合

K・N(女性)

作業所というところ
があるのを知ったのは去年の五月頃
だった。それまでの私の生活はかた
りみだれていて、仕事をしようしよ
うと思いつつ、勇気がなく、自信も
なかった。もし仕事をして失敗した
ら、お金のことが知られるのではな
らぬ。お金の毎日でした。そんな毎

や対人関係能力の低下のためには就
労が困難で偏見と無理解のためにか
たが通帳が得られず条件の悪い職場
に務めをかくして就職し、心身の負担
が高まって再発してしまふなど、私
業界での援助を必要とする者が多い
現状の中で、南所以来五年目を迎え
た園地共同作業所から、二の四月以
降五名の仲間がアルバイトやパート
に行きはじめました。二の中には
南所以来四年、五年と努力を積み重ね
今日に致、一人など、それぞれ条件
違いますが皆頑張っています。
二のように一般就労についた後も、
それを支える活動として施設、保健

日の中で復帰前から地元でも多くの精
神障害者の人と知りあえた。私にと
っては嬉しいことだ。みんなお
互に支って頑張っているんだなと
思った。いつか一人で悩んで、二
は奮然に行ってしまつたことを後悔
したりしてはいたけれど、私だけけ
ないのだからと心したようなどころ
もあつた。その上精神障害者の人々
社会復帰を目標としたところがある
のを知って驚いた。障害をもつても
頑張っている人ばかりなのだ。私も頑

所、職業を定めた所等の団体機関との連
携、家族との連絡の大切さを意識し
ておられます。
最後に、精神障害者が一般就労する
ための要件を上げてみました。これ
らは必ずしもすべてを満足してい
る必要はなく、どの程度満してい
るか、満たしてはいないか、とそれば
なんらかの配慮や援助すれば可能で
ないかという点を確認し、問題点を明
らかにして行くことに意味があると
思います。(才士回 共作連全国大会
より)

- 一、 働く意欲を培つこと
- 二、 ある程度の作業能力を有してい
- 三、 健康を管理すること(服薬の相
- 四、 安定した人間関係を築くこと
- 五、 基本的な生活習慣、社会性が確
- 六、 自己の能力やおかれてる状況

返らなくてはと思つた。今までの私
は悩んだ。たのどううかと思ひはじ
め奮然と進んでいてはいたけれど、自
分自身をきたえなければいけないと
思った。何もしないで家でテレビは
かりみていた私にとって、ああ仕事
をすることがいいことだと思ひはじめ
た。失敗してもいいから、作業所を
出発点として仕事をしようという意
欲がわいてきました。
今私は仕事をしています。いつまで
続くかわかりませんが、社会復帰に
して長く続けたいと思つていきます。
私にとって作業所は心の休まること
です。いろいろな人に出会い、自分
も成長したと思つた。失敗をふまへず
何となくも挑戦した自分に誇りてい
ます。

通院患者リハビリ

ナーシング事業とは

精神障害者の障害の再発防
止と社会自立を促進し、以て
その社会復帰を図ることと同
約とする制度です。
知事や協働事業所を認定して
精神障害者の社会適応訓練を
行うもので、その効果が期待
されることと認められた者を対象に実
施されます。
二の事業に因しての詳しい事
は保健所が窓口になってリネ
オの精神衛生相談員に尋ね
て下さい。



● 四月以降、五名の仲間がアル
バイト等へ行くはじめたり
して、就労への関心が高ま
た為、特長を組んでみました。
・そんな中で、思つたよりも何
かある時に、話し合ひ出来
る相手を待つて、どうにか、
・生活していく上での、
かと思つた。ひとりでは考え
がたりせず、おんおん話ま
はう。

旅行

る趣向作業所でも本人や友
 族が積極的に行政に働きか
 ける事が、大切だとおっし
 やって頂きました。正産ま
 て、私自身両親に面会をサ
 してもらい、そして子供をか
 かえている立場では、街頭
 募金をしたり、福祉事務所
 へ行くよりも、この現状
 だけで済みます。そして、
 そんな自分かすくもどか
 しく感じられます。

同じ人間として生まれ、障
 害者となった私、悔やんで
 も悔やみたりない思いです
 か、今より過去を振り返っ
 ても仕方がないと思える様
 になりました。



一泊旅行参加者から寄せ
 られた感想文です。楽しか
 った旅行の思い出がよき書
 かれていきます。

城崎旅行について

1.0(男)

旅行に行く前夜は、旅
 行くのがうれしくて、ばに
 しろ、予定旅行に行き、い
 はいの、気持がうきう
 きして、朝になって、旅
 行に行く朝になって、皆広
 に着替えて、その時の水着
 が来て、お、紳士やばと言
 われて、うれしくなつて、
 それから汽車に乗って、城崎
 温泉に行、た。みんなうれ

し、うな感じだ、た。もし
 て白山という旅館について
 一泊湯というところへ行き、
 温泉について、体か温まるま
 で湯の中へ入って、そして
 顔を洗って、しまつてから自
 が傷くつた。それは、虚
 駄目に入、たから、いたくは
 ったさうだ。そして、みん
 なで食事をした。料理は、お
 で食べるより、ごちさうであ
 いしか、た。酒は、ほう酢
 い程度で、すくは、解は、
 かった。

研修旅行をおえて

5.1(男)

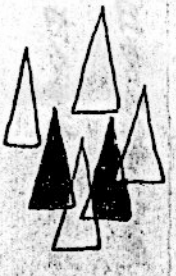
旅行委員にとって一番の
 やる時は研修旅行(目的と
 意味)を正しく皆の頭に

朝だと思、て起きたらまだ
 夜中の二時だ、た。その時
 N田さんが起きていたの
 二人で夜中に話をした。
 Oさんは、いびきをかりて
 いたので、う、みんな自分の家
 と違、うと、二、これほど、獲る
 のは、よほど、神経が、す、太
 のと違、うのか、し、とか、言、
 て、朝まで起きていた。もし
 て六時にOさんが、内湯に入
 られたので、僕は、ユー、ヒ
 とタバコを、買、い、に、行、た。

イメージさせることであ
 たが、どうも、ぼく、の、力、は、そ
 れ、を、す、ま、ま、が、で、き、な、か、た
 ように、思、え、て、ば、ら、な、い、も
 、とも、旅行、は、フ、タ、を、あ、け、て
 み、な、い、と、わ、か、ら、な、い、所、も、多
 く、また、それ、が、は、く、て、は、面

そしてその朝、日和山に行
 き、イルカの姿を見たり、
 浦島太郎の墓を見て、昼食
 を食べた。その時の料理は
 おいしかった。なにせ、K村
 君の食う量には、びっくりし
 た。昼食をたら、ふく、食、つ、て
 そして、駅弁を買、う、の、だ、か、ら、
 として、汽車に乗、つ、て、帰、
 った。

白斗に欠けるとも言える。
 だが、だからといって、ハム
 をは、す、し、す、ま、ま、も、困、る、の、で、
 あ、つ、て、旅行、委員、が、その、た
 め、に、皆、と、話、し、合、い、を、し、た、理
 由、は、そ、こ、に、あ、る、の、だ、け、な、か
 ら、う、か。
 元来、体の弱、い、ぼ、く、は、腫



眠を必らずした。ぷりというねはならなかった。けれども旅行先でそれができなかった。まず目のさめたのが十二時。それからまた寝て目がさめる。陣子がうす明るい。日、夜明けかしと時計を見た。二時。陣子のうす明るさ。街灯だ。た。同室の君が言った。「俺も夜明けかと思っただ。」

かくて三時頃には一居室の者は一皆起きてしまつて、煌煌と蛍光灯が輝き出す。た。前夜は暖房がきいていたが二の時間帯は冷気がしていらした。とても寒かった。けれども暖気が出ると不機嫌になるので無理をしても寝ることにした。蛍光灯が眩しいので俯ぶせに寝た。これでなんとか睡眠時間をかせげたようだった。

次にアルコールであるがビールコップ一杯が限度のぼくは四杯も飲んでしまつた。まわりがたたくさん飲んでいけるとは皆はあまりのめまわりと思つていたがとんでもない思い遣いだ。自分も飲んで大丈夫と思つてしまつたのは大変危険な考えだ。いや、もうその時は酔つてしまつていて判断力がなくなつていらしたのかも知れない。その臭い、一滴も飲まなかつた。た。おさんは偉いと思う。辛い。何事もなかったやうだがこれからは心しようと思つていける。食事は立派すぎて困った。



量も多かったし、とも料理が豪華すぎて困つていたのでぼくぐらゐのものらしくなかつた。スポンが小さ、いせいもあつた。た。かもしれば、大きめの文ボンドでいづい食べていたら気分が悪くなつていらした。つらかつた。た。まばかりのようになりてみたが旅行はとも楽しかった。

△一般寄付▽致森路
 伊賀完治・明田屋物店
 中岡慶太郎・歩よし
 成島幹天・片山 庄一
 和知町社協・瑞穂町社協
 △助成金▽
 朝日新聞厚生文化事業団
 本田火災記念財団
 全国新報陣業者家族連合会



(H1.4.1~H2.3.31分)

あ
 り
 か
 う
 と
 う
 じ
 ゃ
 ず
 ま
 す

英栄印刷紙業KK
 あたニ電子工業社
 京都大学教養部
 ニいつじ苑
 国郵振興局
 国郵保健所
 国社何
 愛国振興局
 愛国保健所
 愛国市役所
 愛国市社会福祉協 済会
 国部町
 日吉町
 和知町
 瑞穂町
 瑞穂保健センター

昨年来にお頼りしました。1万円ほど、上記の皆さまから15,600円ほど頂きました。この力を頂きました。これらは、ボクとして、通所者の皆さまに還元させて頂きました。有難うございました。

編集後記
 ・ようやく5月号が公表された。日々の作業に追われて、立ち止って足もとをやることさえ忘れていた今日、二の
 吸
 ・研修旅行は、思ひ外にうんはまを学ぶ機会に作り出した。今年も行けたらいいネ！
 ・いよいよ自主製品に取り組めます。乞御期待！